

令和8年度第1回三宅町教育委員会 会議録

開催日 令和8年5月22日（金）
午後1時00分～午後2時40分
場 所 三宅町役場 第1会議室

出席委員 大泉志保・甲村真理子・小坂井佳代・鈴木みどり・福島哲也
欠席委員 なし
事務局等 幸田局長、出口課長、中井課長、安原係長、三田政策監、日置指導主事、長谷川係長
傍聴者 なし

○教育長開会挨拶挨拶

- ・先週から今週にかけて EDIX 東京（教育見本市）や東京大学の学園祭、全国教育長会議に参加
- ・生成 AI の活用が教育現場の大きな話題で、子どもたちは積極的に利用を希望している
- ・生成 AI の授業利用に抵抗感ある教員もいるが、子どもの学び支援に期待している

色んなことが課題としてもありますけれど、また一年間よろしくお願ひしたいなというふう思っております。

私は先週、木・金曜日と東京の EDIX 東京という教育見本市、教育関係のいろんな企業が一堂に会して、そこでいろんなプレゼンをするというイベントに行ってきました。

土曜日は三宅町に戻り、チャレンジゴルフに参加して、日曜日には東京大学の五月祭（学園祭）に参加してきました。月曜日には、Google 日本本社で生成 AI の Gemini の勉強会。火・水曜日と町村教育長会、全国の町村教育長 600 人が集まるイベントに参加してきました。

1 週間東京で色々な話を聞いたんですけど、どこへ行っても今は生成 AI の話がトピックになる。子どもがいかに生成 AI と触れ合っているか、どう使っていくかっていう話。それと次期学習指導要領の話。この2つがかけ離れていないか、本当きっちりリンクしているのか。次期学習指導要領で謳われていることは。結局はこれから生成 AI を子どもたちが使うような世の中になっていくにあたって、学校教育はどうなっていくべきかという話に結局結びつく。

ご存知のように生成 AI を使ったら、もう人間として駄目になってしまうのではないかと、すぐ答えが出て人間は考えなくなるのではないかとというような考えもあって、学校の先生の中にもアレルギーを起こしている人がたくさんいらっしゃる。先生の中には「使うべきじゃない」と言う方もいらっしゃる。

ですが、EDIX 東京に行った時に子どもが3人登壇している場面がありまして。その子どもたちが何を言ったかという、「自分たちは生成 AI を活用して、これからどんどん勉強していきたい。生成 AI に答えを求めではなくて、自分の考えが正しいのかどうか、【壁打ち相手】にしたい」

それから、自分の考えをブラッシュアップするために、生成 AI を使いたい。つまり、家に帰って勉強したい。学校でも勉強して家に帰ってもどんどん自分の研究が、先生がいないところでも進めていける。そういう意味で生成 AI を使いたいと。

先生が、あれは使いたくないといったことやっていたら格差が出てくる。

だから、三宅小でも、式下中でもよく話し合っ、上手に生成 AI の使い方を学校教育に入れていくようにしないと、三宅町教育大綱にあるように、子どもたちは未来から留学生だと思うので、未来を見て、未来がどうなっていくのかを考えていかないと、つくづくこの 1 週間で感じた次第です。

委員の皆さん、議員の皆様には今回の未来の学校プロジェクトにご協力いただきまして、第二期生に 4 人とも入っていただきました。本日はよろしく願いいたします。

○教育委員会体制の変更について

⇒ 大泉教育長より説明

教育委員会事務局の体制が大きく変わりましたので、説明させていただきます。

これまで三宅町教育委員会は、教育総務課一課でしたが、社会教育課ができました。

事務局長：幸田

教育総務課長：出口 政策監：三田 指導主事：日置 係長：長谷川

社会教育課長：中井 係長：安原

議題

【報告】

議案を最後にして、報告から進めます。

○報告 1：教育委員会事務局所管にかかる令和 8 年度当初予算

⇒ 安原係長（社会教育課）、長谷川係長（教育総務課）より報告。

小坂井委員：

社会教育とは、どのような活動が該当するのか。また、社会教育課がどのような取組みを実施しているかの情報発信はどういった方法で行っているか。

大泉教育長：

情報発信はホームページやラインで告知をさせていただいている。

教育は、学校教育と社会教育と家庭教育に分けられるが、学校教育の部分を（三宅町教育委員会では）教育総務課が所管している。その学校教育以外のものをひっくるめて社会教育と認識している。生涯学習講座など、住民の皆さんと一緒に勉強する機会といったものが社会教育。

それらを教育委員会がまとめて所管していたが、課が分かれるので今まで以上に住民の皆さんにも分かりやすくしたいと思っている。

○報告 2：三宅町小学校学校給食食物アレルギー対応補助金交付要綱の制定について

⇒ 長谷川係長より報告。

○報告 3：令和 8 年度 三宅小学校教育課程について

⇒ 日置指導主事より報告。

鈴木委員：

AI のことで、AI の活用は以前からされていると思うが、現在子どもが AI とどのように関わりを持っているか。先生方はどのように活用されているか。AI ドリルの反響は。

大泉教育長：

授業の中で子どもたちが AI を使うには法律の問題など、クリアしなければいけない課題があるので、そこまで積極的に授業中に取り入れているということではない。

まずは先生方が使ってくださいとお願いしている。先生方が授業づくりのために使うということ、例えば今まで指導案の作成に時間がかかっていたところを、AI を使って効率的に作るなど。去年の公開授業の時には、この子どもたちが振り返りをしたものを AI を使って動画にして見せてあげた。

先生は積極的に使っているが、子どもたちについては、子どもたちが直接何かを調べるのために使うというよりも、子どもたちが振り返りで書いたものを瞬時に動画にして見せたりと、子どもたちが喜ぶ方法で触れてもらっている。

AI ドリルは 3 年目になる。先生方は非常に便利に使えている。子どもたちも喜んで使っている。

福島委員：

教育課程について、「作成する」で止まってしまうことも有り得るが、一番大事なことは、それぞれの先生方がこれを意識した活動を行うことなのかなと思う。日常が始まってしまったら、教育課程の存在さえ忘れてしまうことも現実的に有り得る。形だけにしてほしくない。

大泉教育長：

仰るとおり。できるだけすべての教室に掲げるぐらいのことがあってもいいとすら思う。

わかりやすい言葉で子どもたちに浸透していくということも大事だと思うので、私の方から校長先生に話させていただいた。わかりやすい言葉で、子どもたちにも、保護者にも。

現実としてはなかなか難しい部分もある。海外の学校はスクールポリシーをすごく大事にしている、廊下のあらゆるところに掲示することで、生徒たちもそれを意識する。飾りにしないための一つの工夫になるのかなと思う。それをプロに頼むのではなく、生徒が書いてもいいのではとも思っている。

鈴木委員：

企業でも、会社のカラーがあって、掲げてる理念がある。昨年会社としてリブランディングをして、たくさん言葉がありすぎると伝わらないのでシンプルにしたが、現場にはどこまで落とし込めているかと思うことがある。

普段から自分が目にするところに、デザインと一緒に落とし込まれてることも大事だなと思う。

大泉教育長：

教育大綱も我々はそういうつもりで掲げた。かなり浸透してきましたけれど、そういうものでありたいなというふうに思います。

小坂井委員：

AI、ICT を活用した教育は小学校のみか。中学校もあって、小中でデジタル化の連携ができていいのか。

大泉教育長：

中学校もあります。ただ、小学校ですごく取組んでいた子どもたちが、中学校ではパタッと触らなくなったという話を結構聞く。デジタル化に向けての取組みの小中連携はまだまだ取れてない。一番大きな課題。

小中学校が違う自治体に分かれてるっていうのは、非常に大きな連携面でのデメリットがあるのは確か。未来の学校プロジェクトでも一生懸命これを何とかしようとしているが、昭和24年から続いている体制なので簡単にはいかない。

○報告4：令和7年度 三宅小学校卒業生の進路状況

⇒ 日置指導主事より報告。

○報告5：令和7年度 学校評価について

⇒ 日置指導主事により報告。

福島委員：

目標と事業の評価の一体化について、当てはめると「目標」というのは「教育課程」で、「事業」というのが「日々の取組み」。

例えばこちらの教育課程の中で、生成AIについて「迅速に分析し、個に応じた的確な支援と学習意欲を高める達成感の醸成を両立させる」と書いているのであれば、「～ということができていますか？」という質問をつけることで、目標となった教育活動と評価が一体化するのではないかと思う。教育課程からすべてを引っ張り出すわけではないが、ポイントになるところ追加しても良いのではないか。

大泉教育長：

学校に必ず伝えます。

鈴木委員：

もし自分が保護者でこの設問に答えるとしたら、答えるのが難しいものもあると感じる。例えば「学校に登校するのが楽しい」というのは、子どもの様子を見てたらこう答えやすいが、「道徳性を養う授業が行われているか」などは、保護者自身が受けるわけではないので、難しいのではないか。

保護者の数値が低いものでも、実際はもっと質のいいものかもしれない。保護者の意見というのが、なんとなくで回答している部分というのがあるのではないかと感じた。

大泉教育長：

仰るとおりです。会話がある家庭であれば、今学校はこんなふうだ、こんな授業があった、となるが、全部そういう家庭ではないと思う。

甲村委員：

学校評価アンケートに対して学校は何を求めているのか。何が知りたいのか、と全体の質問を総合的に見ても感じる。アンケートをとって、学校が何を知りたくて、その結果が学校の次年度にどう活かされているのかというところを知りたい。

大泉教育長：

定点観察のため必要なところもあるかもしれませんが、そればかりありません。ポイントを押さえてみれば、必要なアンケートの内容がもう少し見えてくるのではないかと思う。

福島委員：

こういったアンケート結果がホームページの奥深いところで公開されていることもある。いじめ防止対策基本方針などのようにわかりやすくはなっていないところもあります。

大泉教育長：

学校長とも話していきたい。

小坂井委員：

アンケートの回答率はどれくらいか。

大泉教育長：

教職員 100%、児童 85.7%、保護者 53.8%で、保護者の回答が少ない。

○報告 6：令和 8 年度 全国学力・学習状況調査について

⇒ 日置指導主事より報告。

※ 資料として、今回のテストを配付（国語・算数）

○報告7：未来の学校プロジェクトについて

⇒ 大泉教育長より報告

- ・未来の学校プロジェクトは基本構想段階で、町の活性化を目指す計画
- ・老朽化した校舎の建て替えと教育内容の刷新を同時に進める方針
- ・教育委員会は町民参加のワークショップを通じて基本構想を策定中

○議案1：三宅町立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について

⇒ 日置指導主事、大泉教育長より説明

○事務連絡：経過報告および当面の日程

⇒ 出口課長より説明